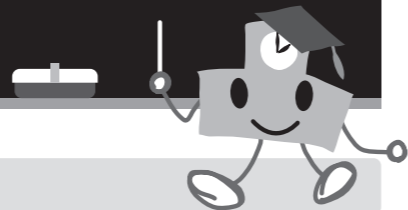


小学校の事例 豊平区 旭小学校

地域の特性を生かした環境学習。 「水車でゴットン」。

平成19年度から水車を動力として活用する取組を行っている。児童が育てたコメやダイズを石臼でひき、児童の学ぶ意欲を高めている。



はじまり 水車は自然のエネルギー源

明治30年代から、この地区には、豊平川の枝川である水車川を利用した水車小屋が7軒あり、精米、製粉などのための動力源として活用されていたことから、「水車町」という町名がつけられた。子供たちは水によって水車が回る仕組みを理解していても、水車を「動力」として活用できることはほとんど知らない。地域の伝統的な文化を学校教材へと生かせるよう、平成19年から取組んでいる。



動力源となる回る水車

内容 水車を使ってきなこ団子を作ろう

以前は、通常の電気ポンプで水を循環させることで水車を動かしていた。平成19年度からは、ソーラーパネルを設置し、水の循環に「光」のエネルギーを本格的に活用している。ソーラーパネルによる電力の蓄積量をデジタル表示しているため、子供たちは時々「あっ!電力がたまっている」と興味深く見ている。また、ボタンを押すと水車の歌が流れ、水が勢いよく流れ出す。目と耳の両方で楽しめる水車は用務員の手作りで、学校と地域のシンボリックな存在となっている。



水車に集まる子供たち

総合的な学習の時間では、5年生が栽培した「コメ」、3年生が栽培した「ダイズ」を水車から得た動力でつぶし、石臼でひいて粉にし、3年生と5年生がペアになり「きなこ団子」を作って食べよう!という活動を「水車でゴットン」と名付けて行っている。きなこ団子を作る際には、町内会や老人クラブなど地域の方に来ていただいて作り方を教えてもらっている。昔、水車を利用していた人たちの話を直接聞くことができ、児童たちも理解しやすいようだ。できあがったものをみんなで一緒に試食し、児童は自分たちが作ったコメやダイズからできているということに喜びを感じ、水車がつくる力に大変興味をもっている。

これからも、豊かな校地内の自然環境や身近な地域社会の中での体験学習を通して、自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高める取組を行っていきたい。



米をつぶした粉に水を混ぜます

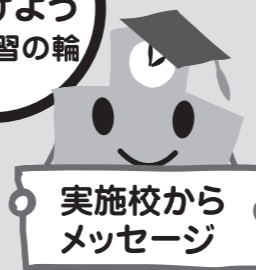


水をくわえてこねます



ゆでた団子は水で冷やします

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

本校のキャッチフレーズは「光と水と緑の学校」です。「光」は朝日の光と、はつらつと元気な子どもを意味し、丈夫な体で強い心を育てていくことを表しています。「水」は学校の側を流れる豊平川を示し、子どもが個性を發揮し主体的に活動する姿、「緑」は山々や木々のもつ人の心に与える和らぎとあたたかさを示し、自然の大きさにも似た子どもの広く温かな心を表しています。

本校の特徴である「都心にありながらも豊かな自然環境」を最大限に活用することを重視し、様々な活動に取り組んでいます。具体的には「光=太陽」「水=水車」「緑=旭の森、ビオトープ・芝草のリサイクル等」の各エネルギーと、保護者や地域の「人のエネルギー」を活用した取組です。この取組により、子どもが学ぶ意欲を高め、学校に対する愛着をもつことへ繋がっていくと期待しています。